

アカシア探険隊

MI・2015(夏)

～サンフレ本拠地潜入の巻～



70回 織田 秀和 氏

～サンフレッチェ広島
代表取締役～

中：紫色した熊って何か分かるかのお？
加：第3回マスコット総選挙で初の1位になったサンチェくんですね！

中：ピンポ〜ン、大正解！

加：もしかしてスカウトですか？！

中：あんたに着ぐるみは無理じゃろ。

加：ほんならまさかの選手ですか？！

中：ワヤ言いんさんな。

ということで今回は、今年2月にサンフレッチェ広島の代表取締役社長に就任されたアカシア70回の織田秀和さんに話を伺ってきました。

中：社長ご就任、おめでとうございます。
また、サンフレッチェは好調ですね。

織：はい、ありがとうございます。皆さまに応援いただいているおかげです。

中：附属小学校当時からサッカー少年
だったんですか。

織：いいえ、色んなスポーツをしていました。冬はサッカー、春や秋は陸上競技をしていましたが、当時は何といっても野球が花形でしたから朝早く学校に行ってみんなで遊んでいました。

加：なぜ中学校でサッカー班を選ばれたのでしょうか。

織：小学校の体育の丸山(芳郎)先生が「サッカーやれ。附属はサッカーだから」と勧めてくださいました。私の父と叔父がアカシア会員であり、サッカーをしていた叔父は早稲田進学後も活躍していましたから、サッカーの方が縁があったと思います。

中：先輩後輩の関係はどうでしたか。



織：附属では体育会系でも上下関係が
変に厳しくなくどちらかというところ
が和気藹々でした。小学校から一緒
にやっている先輩や後輩もいて、兄
弟みたいにチームワークも良かった
んだと思います。

中：顧問は野中(幹夫)先生でしたか。

織：はい。高校の時に野中先生でした。
ご指導は本当にポイントをついてい
らっしゃり、人としての生き方につい
ても教わりましたね。

中：恩師のお一人なんですね。

織：はい。あこがれの野中先生からの勧めもあり、筑波大学に行きました。

中：昔は附属のグラウンドでリーグ戦が行われたりしましたね。

織：確か中学の頃だったと思いますが、東洋工業の選手が練習に来てくれました。あこがれていた小城(得達)さん(51回)、田村(誠)さん(60回)、古田(篤良)さん(61回)と一緒にボールを蹴ることが出来たのはとても幸せでした。高校を卒業してからもサッカーをずっと続けたいと思っていましたね。教員が長くサッカーに携われると思ったので、最初は教員志望でした。

中：恩師の野中先生みたいに、ですね。

織：そうです。教員になるなら地元に残っても良かったんですが、選手の間はバリバリにサッカーをやりたかったのです。高Ⅲで国体に出場できたので、強豪揃いの関東リーグに挑戦したかった。筑波大学に進学し2年の頃からレギュラーに選ばれました。仲間にも恵まれ、川崎フロンターレ監督の風間八宏君も同期で、彼らとサッカーするのは楽しかったですよ。目指しているところが遥かに高かったですからね。気づいたらもっとサッカーをしたいと思うように変わりました。教員だと現役選手を続けるのは難しいですし、指導する立場になりますからね。その時、東洋工業から広島に戻って来ないかと声を掛けられたんです。

加：筑波はレベルが高かったんですね。

織：広島では自分が一番と思っていたんですが、大学に入ってから考え方を切り替えました。私は彼らのようにはなれないけれど、彼らには出来ないプレーをしようと。例えば守備で一生懸命に走り続けるというように、ここなら勝てるという部分を考えて練習しました。ポジションもディフェンダーを選んだりね。

加：ディフェンダーだとしても他に選手



P r o f i l e

昭和36年4月22日広島市佐伯区五日市生、49年広島大学附属小学校卒業、52年広島大学附属中学校卒業、55年広島大学附属高等学校卒業、59年筑波大学卒業、同年東洋工業(株)(現マツダ(株))入社、マツダサッカークラブ(サンフレッチェ広島前身)加入、平成3年マツダサッカークラブ引退、4年マツダ(株)からサンフレッチェ広島に出向、13年サンフレッチェ広島に転籍、27年代表取締役社長に就任。

サッカー受賞歴

昭和54年宮崎国体出場、55年関東リーグ優勝、55年総理大臣杯準優勝、62年天皇杯準優勝

サッカー指導歴

平成3年マツダサッカースクール(幼児～小学生)、7年(財)日本体育協会公認B級
コーチ資格取得、7年～8年日本サッカー
協会ナショナルトレセンコーチ(中国地
域担当)、8年F.A International Coaching
Course (International preliminary Level) 資
格取得、9年(財)日本体育協会公認A級
コーチ資格取得

がいたでしょうが、選ばれるようになったポイントは何だったんでしょう。

織：そうですね。サッカー選手らしくないかも知れませんが、とことん走り負けしないとか、激しくぶつかって身体を張って守るとか、恐らく自分の持ち味は頑張ることだと思います。頑張るというのは、能力の問題じゃないと思うんです。自分がやるかやらないかの問題だと思っています。

中：附属にいらした頃に体育以外で好きな科目は何でしたか。

織：う～ん・・・何ですかね。苦手だったのは英語です。共通一次の試験も悲惨な点数でした。それが社会人になってから心機一転して英検2級を取得し、TOEICでも高得点を取れるようになりました。というのも、私がマツダに入った年にハンス・オフトさんが監督として来られ、通訳もいたのですが、監督と直接コミュニケーションしたかったのです。当時は外国人選手も増えて、マツダがフォードとの関係を深めていたので英語の社内教育制度があり、3年間週2回、始業前

に英会話を習い続けました。やはり必要に迫られて勉強すると力がつきますね。そこで教わったことを基にピッチでも会話をしていく内、自信を深めていきました。英語教育には会話も大事だと思いますよ。

中：オフト監督の指導はどうでしたか。

織：その1年前に初めて2部に落ちた時でしたから、午前も午後も毎日練習でした。その時が一番サッカー漬けでしたね。高校や大学よりも。オフトさんは当時の日本で最先端の指導者でした。特に戦術や考え方などは大変に勉強させてもらいました。

加：心に残ったひと言とかありますか。

織：“Watch the mirror”です。鏡には自分の姿が映るのですが、自分のありのままの姿を客観視しなさいということです。つい自分中心にプレーをしたり考えたりしがちですが、頭に血が上った時にも一瞬心を落ち着かせて間が取れるようになったと思います。

加：選手引退後は何をされたのですか。

織：マツダの子供サッカースクールでコーチをし、1年したらサンフレッチェが誕生しました。プロのチームでフロントの仕事をしてみたいと思いましたが、そのためには事務仕事も学ばねばだろうと考え、私が成長し必要になった時に呼び戻してください、と当時の上司であった今西総監督にお願いしました。わかった、ということだったのですが、半年過ぎてもどこにも配属されず、結果的に現場が人手不足だったからだと思いますが、選手からコーチや監督じゃなくてフロ

ントになりました。でも今の私自身は、いや～困ったことになったなあ、というのが正直な気持ちですね。今までは勝ち点3をどうするかということばかり考えていたのが、今はどうやってたくさんのお客様に応援に来てもらうか、スポンサーや広告看板などを増やしていくかということを考えなくちゃいけませんからね。

中：なかなか大変なんですね。

織：もう一つあるのが、現場しか知らなかった奴がトップをしたらやっぱりダメじゃったのお、とは言われないうにしたいですね。後に続く人のためにも、出来るだけ粘り強く取り組んで行きたいと思っています。

加：今までと他に何か変わりましたか。

織：サッカーしかやって来なかった私が今また新たに色んなことを勉強させていただいています。社長に就いて今は挨拶回り中です。これまでお会いすることのなかった一流企業の経営者の方とお会いするようになりましたし、狭い世界にいたんだなとも思うようになりました。

中：在校生へのメッセージをどうぞ。

織：興味あることにどんどんチャレンジして欲しいですね。自分から選択肢を狭めないように何でもいいから挑戦してみたらいいと思います。色んなことに広く興味を持つことは大事だと思います。それと人との出会いは大切にしたいです。人によって自分が変わるチャンスが来るかも知れないですから。色んな可能性が生まれたり、自分の決断を後押ししてもらえるかも知れないし。だからこそ人を大事にして欲しいです。

中：サッカースクールみたいです。

織：そうですね。もちろんスクールではプレーが上手になって欲しいと思っていますよ。でもサッカーが上手くなる前に人間性を高めて欲しいです。プロ選手を育てることも大事なことで

けど、それ以上に立派な人間を育てていくの方が大事な役目だと思っています。サッカーを通じて人間を教育していけるチームづくりをしたいと思っています。

加：確かに選手たちに直接お会いしたらとても優しく親切ですね。

織：あれ？加用さんはもしかしてこの前、選手とのイベントに来てなかった？お坊さんの格好してたでしょう。

加：あつ、はい。伺いました。

織：千葉(和彦)選手とリフティングしたお坊さん、やるなと思って見とったよね。

加：御利益あるかなと言われたんですが記念のJ1通算1000ゴールを決められて本当にいいことありましたね。

織：そうか。今度言っとくよ。

中：アカシアの皆さまにもどうぞ。

織：ぜひスタジアムに足を運んで応援しに来てください。広告を出していただけたらもちろん嬉しいですが、やはりスタジアムに足を運んで熱い応援で選手の背中を押してください！

中：今日はどうもお忙しい中をありがとうございました。

・・・・・・・・・・・・・・・・

加：サンチェもフレッチェもサプライズ登場がなかったですね。

中：えっ、会いたかったん？！

加：サイン欲しくて密かにユニフォーム持って来たんすけどね。。。

中：じゃあスタジアムに行きんさい。

中本泰弘(65回)

加用雅信(80回)

撮影 瀬尾 淳(85回)



左より 瀬尾淳(85)、加用雅信(80)、織田秀和氏(70)、中本泰弘(65)

～母校定期演奏会のお知らせ～

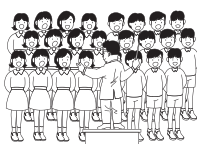
合唱班第9回定期演奏会

日時：2015年8月2日(日)

開場：14：30 開演：15：00

場所：広島大学附属中・高等学校講堂

曲目：「ルネッサンス期のシャンソン」から、
「フォーレ・レクイエム」(OBステージ)
「青いベンチ」『歩いていこう』ほか(生徒による企画ステージ)
「土の歌(抜粋)」(OB・生徒合同ステージ)



入場無料！お気軽にお越しください。

管弦楽班 第39回 定期演奏会

日時：2015年8月8日(土) 開場：16：00 開演：16：30

場所：広島国際会議場フェニックスホール(平和公園内)

曲目：シベリウス交響曲第1番、ボロディン「韃靼人の踊り」、「オペラ座の怪人」、「魔法にかけられて」、他
ワーグナー「ニュルンベルクのマイスタージンガー」第1幕
への前奏曲(OBOGアカシアフィルオーケストラ)

※会場に駐車場はございませんので、付近の一般駐車スペースにお停め頂くか、市内電車などの公共交通機関をご利用下さい。